

ふるさと Something NEWS

第32回

Staying home — and enjoying working

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事
佐藤建吉

書き込み & 三密

Facebookの友達が書いたような書き込みは、共感を得る方が多数おられると思われる。

「自粛中でも全く問題なくやれる仕事：①私のメイン・ビジネスである太陽光発電。自分は自宅に居ても、全国あちこちの設備で完全自動運転中、②株の売買。全て電

▼アグリの魅力 — コメ作り

趣味は農業、いま風にいえば、アグリだ。農業の体験は、これまでも庭先で行っていたが、転機となったのは、今から5年前、千葉県大多喜町で廃校小学校を賃借し、地域活性化活動をしていった時である。

肥料は、事業で関係のあった隣の町のみ殺菌剤、無農薬。秋になると、ちゃんと稔り、黄金色。台風にも耐えてくれた。秋晴れの日に、手鎌で稲刈り。プールサイドのフェンスに掛け、乾燥。その後、廃校小学校の体育館で、脱穀、籾摺りを行った。

筆者の「コメ作り」は2年ほど前。農業の喜びとコシヒカリの自米の食味を味わった。大多喜町で廃校利用を終え、2年が経ち、今年、コロナ禍の中で再び挑戦した。

まず、オリブ栽培を始めた。昨年10月に苗を購入し、越冬し、コロナ禍が広がりはじめた3月1日から着手した。総計146本のオリブの植え付け作業には、定年となった畑の所有夫妻にも手伝っていただいた。穴掘り、施肥、水やりと骨の折れる仕事であった。耕運機も借りて行った。このオリブ畑は、「ポパイのエデン・プロジェクト」と名付けた。畝のすきまにはホウレン草を蒔いた。

休耕田は2年前から借りて、マコモを育てていたが、稲作を行うことにした。コメ作りには、水が必要で、治水工事をスコップで始めた。スコップで10センチずつ泥土を削り水の流れる堰を開削すること、これも骨の折れる仕事である。しかし、気が付くと、見事に出来ている。大袈裟に言いつつ、「世界は神がつくったが、オランダは

り口には休耕田と休耕田があり、そこを借りて、アグリ体験をする

ことにはした。まず、オリブ栽培を始めた。昨年10月に苗を購入し、越冬し、コロナ禍が広がりはじめた3月1日から着手した。総計146本のオリブの植え付け作業には、定年となった畑の所有夫妻にも手伝っていただいた。穴掘り、施肥、水やりと骨の折れる仕事であった。耕運機も借りて行った。このオリブ畑は、「ポパイのエデン・プロジェクト」と名付けた。畝のすきまにはホウレン草を蒔いた。

スコップで掘り進んだ。だが、泥土のぬかるみでは、耕すのが大変であった。ホームセンターで小型の耕運機を購入した。それは、タイヤがなく回転する鋤(すき)の刃が、回転するにつれて前進するといふものだ。この耕運機自体が埋もれてしまふという難点があるが、持ち上げつつアクセルを引くと前進する。エンジン出力と回転刃との反応を観ながら耕運機を操作する。その加減が要である。その瞬間も、なかなかの醍醐味がある。

こうしてできた「岬」のデザイン田んぼに、コシヒカリの稲苗を植えた。なお、その向こう側の田んぼには、有機無農薬土壌活力剤である「KSB浄化水溶液機能水」の効果を実証するために、KSBを使用した場合と使用しない場合の比較を行う実験田んぼとした。KSBは田んぼにいてもいい、物置倉庫を2×4材で造り防腐塗装を行った。コロナ禍は、従来の私

「距離をあげ」、「お」オンライン／三密なしで「親密に」、「ろ」労働は「三密避けて」テレワーク」などがある【註1】。

さて、筆者は自宅での「at staying home」、趣味と実益を兼ねての農業体験を行った。

筆者は、耕運機を休耕田の所有者の好々爺から借り、運転操作を教えて頂き、作業を始めた。すべてに初心者、ゆっくりと田均しも終え、田植えは、手植えで腰痛に苦労しながらも、早朝から夕暮れまで一週間近く掛けて仕上げた。

肥料は、事業で関係のあった隣の町のみ殺菌剤、無農薬。秋になると、ちゃんと稔り、黄金色。台風にも耐えてくれた。秋晴れの日に、手鎌で稲刈り。プールサイドのフェンスに掛け、乾燥。その後、廃校小学校の体育館で、脱穀、籾摺りを行った。

筆者の「コメ作り」は2年ほど前。農業の喜びとコシヒカリの自米の食味を味わった。大多喜町で廃校利用を終え、2年が経ち、今年、コロナ禍の中で再び挑戦した。

まず、オリブ栽培を始めた。昨年10月に苗を購入し、越冬し、コロナ禍が広がりはじめた3月1日から着手した。総計146本のオリブの植え付け作業には、定年となった畑の所有夫妻にも手伝っていただいた。穴掘り、施肥、水やりと骨の折れる仕事であった。耕運機も借りて行った。このオリブ畑は、「ポパイのエデン・プロジェクト」と名付けた。畝のすきまにはホウレン草を蒔いた。

休耕田は2年前から借りて、マコモを育てていたが、稲作を行うことにした。コメ作りには、水が必要で、治水工事をスコップで始めた。スコップで10センチずつ泥土を削り水の流れる堰を開削すること、これも骨の折れる仕事である。しかし、気が付くと、見事に出来ている。大袈裟に言いつつ、「世界は神がつくったが、オランダは

り口には休耕田と休耕田があり、そこを借りて、アグリ体験をする

ことにはした。まず、オリブ栽培を始めた。昨年10月に苗を購入し、越冬し、コロナ禍が広がりはじめた3月1日から着手した。総計146本のオリブの植え付け作業には、定年となった畑の所有夫妻にも手伝っていただいた。穴掘り、施肥、水やりと骨の折れる仕事であった。耕運機も借りて行った。このオリブ畑は、「ポパイのエデン・プロジェクト」と名付けた。畝のすきまにはホウレン草を蒔いた。

「距離をあげ」、「お」オンライン／三密なしで「親密に」、「ろ」労働は「三密避けて」テレワーク」などがある【註1】。

さて、筆者は自宅での「at staying home」、趣味と実益を兼ねての農業体験を行った。

筆者は、耕運機を休耕田の所有者の好々爺から借り、運転操作を教えて頂き、作業を始めた。すべてに初心者、ゆっくりと田均しも終え、田植えは、手植えで腰痛に苦労しながらも、早朝から夕暮れまで一週間近く掛けて仕上げた。

肥料は、事業で関係のあった隣の町のみ殺菌剤、無農薬。秋になると、ちゃんと稔り、黄金色。台風にも耐えてくれた。秋晴れの日に、手鎌で稲刈り。プールサイドのフェンスに掛け、乾燥。その後、廃校小学校の体育館で、脱穀、籾摺りを行った。

筆者の「コメ作り」は2年ほど前。農業の喜びとコシヒカリの自米の食味を味わった。大多喜町で廃校利用を終え、2年が経ち、今年、コロナ禍の中で再び挑戦した。

まず、オリブ栽培を始めた。昨年10月に苗を購入し、越冬し、コロナ禍が広がりはじめた3月1日から着手した。総計146本のオリブの植え付け作業には、定年となった畑の所有夫妻にも手伝っていただいた。穴掘り、施肥、水やりと骨の折れる仕事であった。耕運機も借りて行った。このオリブ畑は、「ポパイのエデン・プロジェクト」と名付けた。畝のすきまにはホウレン草を蒔いた。

休耕田は2年前から借りて、マコモを育てていたが、稲作を行うことにした。コメ作りには、水が必要で、治水工事をスコップで始めた。スコップで10センチずつ泥土を削り水の流れる堰を開削すること、これも骨の折れる仕事である。しかし、気が付くと、見事に出来ている。大袈裟に言いつつ、「世界は神がつくったが、オランダは

り口には休耕田と休耕田があり、そこを借りて、アグリ体験をする

ことにはした。まず、オリブ栽培を始めた。昨年10月に苗を購入し、越冬し、コロナ禍が広がりはじめた3月1日から着手した。総計146本のオリブの植え付け作業には、定年となった畑の所有夫妻にも手伝っていただいた。穴掘り、施肥、水やりと骨の折れる仕事であった。耕運機も借りて行った。このオリブ畑は、「ポパイのエデン・プロジェクト」と名付けた。畝のすきまにはホウレン草を蒔いた。

「距離をあげ」、「お」オンライン／三密なしで「親密に」、「ろ」労働は「三密避けて」テレワーク」などがある【註1】。

さて、筆者は自宅での「at staying home」、趣味と実益を兼ねての農業体験を行った。

筆者は、耕運機を休耕田の所有者の好々爺から借り、運転操作を教えて頂き、作業を始めた。すべてに初心者、ゆっくりと田均しも終え、田植えは、手植えで腰痛に苦労しながらも、早朝から夕暮れまで一週間近く掛けて仕上げた。

肥料は、事業で関係のあった隣の町のみ殺菌剤、無農薬。秋になると、ちゃんと稔り、黄金色。台風にも耐えてくれた。秋晴れの日に、手鎌で稲刈り。プールサイドのフェンスに掛け、乾燥。その後、廃校小学校の体育館で、脱穀、籾摺りを行った。

筆者の「コメ作り」は2年ほど前。農業の喜びとコシヒカリの自米の食味を味わった。大多喜町で廃校利用を終え、2年が経ち、今年、コロナ禍の中で再び挑戦した。

まず、オリブ栽培を始めた。昨年10月に苗を購入し、越冬し、コロナ禍が広がりはじめた3月1日から着手した。総計146本のオリブの植え付け作業には、定年となった畑の所有夫妻にも手伝っていただいた。穴掘り、施肥、水やりと骨の折れる仕事であった。耕運機も借りて行った。このオリブ畑は、「ポパイのエデン・プロジェクト」と名付けた。畝のすきまにはホウレン草を蒔いた。

休耕田は2年前から借りて、マコモを育てていたが、稲作を行うことにした。コメ作りには、水が必要で、治水工事をスコップで始めた。スコップで10センチずつ泥土を削り水の流れる堰を開削すること、これも骨の折れる仕事である。しかし、気が付くと、見事に出来ている。大袈裟に言いつつ、「世界は神がつくったが、オランダは

り口には休耕田と休耕田があり、そこを借りて、アグリ体験をする

ことにはした。まず、オリブ栽培を始めた。昨年10月に苗を購入し、越冬し、コロナ禍が広がりはじめた3月1日から着手した。総計146本のオリブの植え付け作業には、定年となった畑の所有夫妻にも手伝っていただいた。穴掘り、施肥、水やりと骨の折れる仕事であった。耕運機も借りて行った。このオリブ畑は、「ポパイのエデン・プロジェクト」と名付けた。畝のすきまにはホウレン草を蒔いた。

オリブ畑のbefore & after 「ポパイのエデン・プロジェクト」



休耕田のbefore&after 「『岬町』田んぼアート・プロジェクト」



「世界は神がつくったが、オランダは

り口には休耕田と休耕田があり、そこを借りて、アグリ体験をする

ことにはした。まず、オリブ栽培を始めた。昨年10月に苗を購入し、越冬し、コロナ禍が広がりはじめた3月1日から着手した。総計146本のオリブの植え付け作業には、定年となった畑の所有夫妻にも手伝っていただいた。穴掘り、施肥、水やりと骨の折れる仕事であった。耕運機も借りて行った。このオリブ畑は、「ポパイのエデン・プロジェクト」と名付けた。畝のすきまにはホウレン草を蒔いた。

スコップで掘り進んだ。だが、泥土のぬかるみでは、耕すのが大変であった。ホームセンターで小型の耕運機を購入した。それは、タイヤがなく回転する鋤(すき)の刃が、回転するにつれて前進するといふものだ。この耕運機自体が埋もれてしまふという難点があるが、持ち上げつつアクセルを引くと前進する。エンジン出力と回転刃との反応を観ながら耕運機を操作する。その加減が要である。その瞬間も、なかなかの醍醐味がある。

▼Stay of Staying

新年度のこの春先、コロナ禍でStaying homeとなったが、Staying homeとして認識されるだろう。

【註1】「コロナ対策 東京都」
https://www.tokyo-met.go.jp/policy/covid19/projects/default_project/

【註2】本紙コラム「地」
https://www.tokyo-met.go.jp/policy/covid19/projects/default_project/

【註3】環境省、平成30年度環境技術実証事業、湖沼等水質浄化技術分野
https://www.env.go.jp/policy/covid19/projects/default_project/

連載